

# Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年4月23日発行 No.66

『わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。』  
(ヨハネによる福音書 第10章14～16節)

<KIUの至宝パイプオルガン「ルナ」の奏でる響きを貴方に…。今年度初の音楽礼拝開催!!>

先週の火曜日は音楽礼拝が行われ、オルガニストの伊藤先生が復活節にちなんだ喜びの聖歌をアレンジして演奏して下さいました!! 私はキリスト教教育に携わるようになって日本中の様々な教会やキリスト教学校の礼拝堂・チャペルを訪れましたが、このKIUのチャペルとパイプオルガンは本当に素晴らしい、他に類を見ないような魅力を内包していると思います。本物が奏でる音に触れる事で、人間の感性というか、魂の感度のようなものが研ぎ澄まされる…そんな感じがします。初めてチャペルを訪れた1年生は、その迫力に驚いていましたが、神戸国際大学にこのような素晴らしいパイプオルガンが存在している事を、ぜひ覚えておいて欲しいと思います。今年度も主に火曜日に行われる音楽礼拝、皆さんぜひ足をお運びください!!!



来訪者を後ろから音で包み込む



心に染み込んで来るような演奏



情報誌にも掲載され注目が集まる

<学内を彩る春の足音…。美しいチューリップがチャペルに届けられました!!>

今年の春は、寒暖の差が激しく、せっかく咲いた桜もあっという間に散ってしまいました。しかし!! 春を告げる花は桜だけではありません。KIUのキャンパス内にはたくさんのチューリップが春の麗しさを謳っています。ふとカレンダーを見ると慌しかった4月も終盤を迎えています。少し肩の力を抜き、お花や青空に込められた神の恵みを感じつつ歩みたいですね。



施設・防災センター職員の九鬼さん・松本さんが届けて下さいました!!



青空にお花と十字架が映えます

## ＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

4月16日（月） テーマ：「おばあちゃんの言葉」 野間 光顕（チャプレン）

私は祖母に可愛がられて大きくなった。祖母の口癖は「べっちょない」（別状ない、大丈夫の意）。私が転んで泣いていると、よく祖母は「べっちょない」と言って慰めてくれた。祖母にそう言われると、膝の痛みも不思議と和らいた。これまでの人生で自分の力を問われる場面でも「べっちょない」と言い聞かせる自分がいた。この言葉を唱える時、祖母の温かい手が私を支えてくれているように思える。十字架による処刑の後、絶望の中にいた弟子達の所に現れた復活のイエスは「平和があるように」と彼らを勇気付ける。この言葉によって弟子達は全世界にイエスの喜び、希望のメッセージを伝え、それが今日のキリスト教になっている。新学期を迎え新しい歩みを始めている人が多い中、この聖句を胸に自信を持って歩みを進めていきたい。

4月17日（火） ※この日は今年度初の音楽礼拝!! オルガニストの伊藤純子先生の演奏に耳と心を傾けました。KIUの宝であるパイプオルガンの響き、ぜひ皆さんもご鑑賞ください!! 次回は4月24日（火）です!!

4月18日（水） テーマ：「『イカロスの墜落』が語りかけること」 居神 浩（副学長）

私は毎回昼礼拝で世界の芸術作品を紹介している。今回はブリューゲルの「イカロスの墜落」。ギリシャ神話のイカロスは、翼を作って獄島から脱出するが、高く飛びすぎて太陽に近づいたため墜落してしまう。自分の力を過信し、注意を怠った者が失敗するという分かり易い訓戒であるが、この絵には他にもメッセージが存在する。例えば墜落するイカロスに対して無関心な人間たちは、この絵が描かれた時代の政治的・社会的様相を表現していると言われる。また違った視点では、そのような時代に流されず、黙々と自分に与えられた日々の働きに勤しむ事の重要性を説いているようにも見える。名画の語る声を読み取り、自分の歩みに活かしたい。

4月19日（木） テーマ：「ピストルとキリスト教」 野間 光顕（チャプレン）

今日は、一人のミュージシャンを紹介したい。名前は、「竹原ピストル」。彼を初めて見た時、お世辞にも美しいとは言えないしゃがれ声で、額や首筋に血管を浮かび上がらせ、汗だくになりながら歌い続けるその姿に度肝を抜かれたが、曲が終わった後に心に残る温かいメッセージに不思議な魅力を感じた。彼の歌は、物事を白黒や勝ち負け、強弱や善悪といった二元論で区切ってしまわず、むしろそれらが繋がっている事を指し示すものが多い。そしてそれは、強いキリスト教的メッセージとして私の耳に、そして心に響いてくる。キリスト教の魅力、それは物事を多角的に見つめ、その一つひとつを神からの恵みとして大切に受け止める所にある。神戸国際大学の土台には、この多様性と寛容に満ちたキリスト教が流れている。ここに連なる私たちも、今一度、赦し合い受け入れ合う、そのような歩みを共に進めて行きたいと願う。

4月20日（金） テーマ：「『失敗は成功の基』か」 下田 繁則（経済学部長）

MLBで大谷翔平選手の活躍が話題になっているが、彼にインタビューをした元MLB経験者石井一久氏の言葉に「成功するための失敗力」というものがあった。大谷選手はシーズンを迎える前に、日本とアメリカの違い（ボールやマウンド等）を踏まえながら様々なチャレンジを意識的に行っている。そこでの失敗が今の成功に繋がっている。他の記事に、大谷選手の言葉「僕には伸びしろしかない」が掲載されていた。自らの可能性に対する強い自信を感じる。人生は失敗の連続、言い換えれば人は失敗を経験して成長する。失敗のレベルにも様々あるが大切なのは失敗した時に「くじけない力」、その失敗を乗り越える「タフさ」を身に着ける事だと思う。そのためにもあきらめない心と柔軟な姿勢を大切にしたい。 （文責：野間 光顕）